

受賞者からのコメント

● 授業を行うにあたって工夫していること

授業にはパワーポイントを使用しています。スライドを小さく印刷したハンドアウトは使いません。テキスト資料は別にレジメを作成して毎回配布します。授業資料は、まずレジメを作成し、それからそのレジメを基にしてスライドを作成する順にしています。レジメは一覧性を重視し、文献や教科書からの引用の図表を含め一コマの授業で原則A4版2枚（A3見開き）に収まるように情報は最小限としています。資料の解説は授業のメインではなく、多くの時間は実際の画像（写真）の呈示とその所見、そして考察と法医診断の解説に費やしています。印象に残るような画像資料をできるだけ多く用意しています。これらの画像は、法医実務（解剖・検案）のなかで、学生教育用にとの視点で撮影してきたものです。

担当の授業では、演習として宿題レポートを課しました。レポートには必ず添削を入れ、質問があれば回答コメント、最後に評価を記入して学生に返却し、授業の最初でレポート課題の解説をしています。この課題は、調べることより、自分で考えることを重視した内容としています。カリキュラム上、法医実習に当てる時間がありませんでしたので、なるべく実務（臨床）に触れることができるように、実際の事例からの演習課題を構成しました。法医で学んだことが、臨床医療に役立つような **Hint & Tips** を盛り込んだ授業になるようにと思っています。

● 学生への要望・アドバイス等

法医学を業として行う医師は決して多くありません。法医に少し興味があったら、気軽に教室を訪ね、法医解剖の見学に足を運んでみてください。臨床医として活躍する中で、法医学の知識がどうしても必要となる時があります。医療の現場でちょっと困ったら、学んだことを思い出してみてください。「法医」というキーワードがでてくるだけで良いと思います。それできっと役に立つはずです。質問はいつでも、卒後でも受け付けています。